「大妻女子大学まちづくりの会」による地域住民への教育支援

厚東　芳樹　准教授
（家政学部　児童学科）

1. 本プロジェクトの目的

児童学科児童教育専攻では初年次教育の一環として、長年、地域の人と関わる活動を大切に実施している。その活動の中で、都会のど真ん中にある千代田区には、自然や公園が少なく、子どもが「身体を動かし遊び育つ環境」が少ないという大きな課題が浮き彫りになっている。とりわけ、千代田区の子ども達は身体活動量が少なく、立位姿勢の乱れや足育の遅れが経験的に多い傾向にあるものと考えられる。また、塾などを優先するあまり体験格差が生起していることも問題となっている。

本プロジェクトの目的は、そんな環境下で暮らす子どもたちの教育支援として、地域と連携して子ども達が定期的に身体を動かす空間と色々な体験ができる機会を創っていくことで、少しでも身体の乱れの改善につながる足がかりになることや色々な体験格差を縮小したいところにある。今年度は、昨年度の活動を継続しつつ、近隣の小学校や児童学科の中核に位置づく科目「児童学基礎体験演習」などで連携している神栖市の農業関係者と連携し、「農家として生きること」を都市部の子どもに伝える活動にも踏み込んで取り組んだ。

2. 活動の結果

令和 7 年 10 月 18－19 日の 2 日間で開催された大妻女子大学の文化祭の中で、子ども向けの縁日広場（10 店のブースを設置）を実施した。事前準備として、設置するブースの内容を決定する際には「大妻の児童学科らしさ＝理科的な要素を含めること」「本プロジェクトの研究目的を意識すること」の 2 点に今回も気をつけて行った。このとき、昨年度は材料が不足してしまったという反省点を生かして、1 日 100 名の来場者を想定した材料等の準備を各ブースの担当者間で調整し、それを集約する形とした。また、本年度でも千代田内の複数の小学校・幼稚園・保育園に宣伝広告を配布して来場を手分けてして呼びかけることも行った。

残念ながら、本番の文化祭では想定したよりも少ない来場者となってしまった。これには、他団体が子供向けのブースを玄関付近に多く出店していたこと、配置された位置が 6 階であったことから来場者が 6 階までわざわざ上ってこない状況にあったことなどが考えられた。ただ、来場してくれた子ども達からは「とても楽しい」「作る作業が初めてで嬉しかった」などといった嬉しい声が今回も聞こえてきた。保護者からも「毎回、無料なのでとても有難いです。最近のお祭りはどこも高くて 600 円とか 1000 円を超えるものばかりなので、多くの体験を子ども達に自由にやって良いよと安心して言える貴重な機会なので今後も続けてほしい」「お姉さんたちと関われるのが嬉しいみたいで、子供が久しぶりに楽しそうに活動しているし連れてきて本当によかった。来年も来ます」という声を頂戴しました。一方で実際にブースを担当した大妻生達からは、「直接、子ども達と触れ合える貴重な機会になった」「準備がとにかく大変だったけど始まったら楽しかった」などの肯定的な声があった一方で「6 階は厳しいです」「今年はちょっと暇な時間が多いかも」といった声もあった。また、1・2 年生をペアとしたグループ編成に対する不満は多く、学年を超えた縦の活動の難しさはあった。これらについては、次年度以降に向けての反省点としたい。また、今回は連携している神

栖市の JA 関係者や農家の方々と協力して収穫したピーマンの販売も同時に行い、神栖市の農業の特徴や農業の魅力の発信も行った。この活動についても、「身近なピーマンなのに、その農法などまったく知らなかったので勉強になりました」という声や学生側からも「直接、土を耕したり収穫したものが人の手に届くのは嬉しかったです」など肯定的な声が多かった。

その他、令和 6 年 11 月頃から 1 か月に 3 から 4 回程度、「子供向け」と「大人向け」の大妻スポーツ教室をそれぞれ実施した結果、毎回 20 名前後の地域住民の方が来校してくださり、定期的な身体活動の場が開催できていた。子供向けの大妻スポーツ教室では、リピーターの方々が多くなり好評であるものと考えられる。また大人向けの活動でも、ボール運動を中心とした活動に限定して行った結果、「内容が限定されているのでお互いに参加する声をかけやすく集まりやすいので有難い」という声などが聞かれた。これらについては、次年度も継続して取り組んでいきたいが、そのためには活動を支える側のマンパワーも必要になることが課題として残った。

3. まとめ

三番町町内会の懇親会に招待して頂いた際、その際に活動報告を簡単に行った。次年度に向けた課題として、フラワーロードの会の活動に対する地域住民の方（とりわけ、三番町町内の方々）の認知数は増加しているように実感する一方で、スポーツ教室や文化祭縁日広場での活動の認知はそこまで進んでいないようにも感じたため、「次年度はいかに認知してもらい利用してもらうか」というものが挙げられる。最後に、「大妻女子大学まちづくりの会」と称してスタートした本活動を今後も継続して取り組みを続けていきたいと考える。告知等も含めて、今年度も本活動を支援して下さった大妻女子大学地域連携推進センターの関係者の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。



図 1. 文化祭での縁日広場



図 2. 地域住民に向けた定期的な体育的活動



図 3. 神栖市にて農業を学ぶ



図 4. 収穫品の販売と「農業」「農家」の今を紹介